

博物館だより

No.7

平成18年11月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

秋の企画展

神社・神主・神楽 の江戸時代 開催中!!

現在、当館では秋の企画展『豊前地方の近世・近代文書展』
社・神主・神楽の江戸時代』を
開催中です。近年発見された神社
の古文書を中心に展示し、江戸時
代における神社・神主・神楽の
姿、移りかわりを紹介していま
す。ぜひ、ご来館ください。

■開催期間

12月10日(日)まで

■開催場所

みやこ町歴史民俗博物館展示室

■主な展示品(順不同)



▲御先(豊前市岩屋神楽) 向井澄男氏撮影

■観覧料

大人 200円
高校生以下 100円
※団体20名以上は各50円引き

■同時開催

長年にわたり京築地区の祭り・
風物を撮り続けた故・向井澄男
さんの写真展も同時開催中です。

歴史民俗博物館 友の会会員募集!

旧豊津町歴史民俗資料館には、
賛助団体として「豊津町歴史民俗
資料館友の会」があり、独自の事
業を行なってきました。この「友
の会」は発足(平成7年度)以
来、いかなる団体からも補助金・
助成金を受けず、会員の会費のみ
で運営を続けています。年度に
よって違いはありますが、毎年お
よそ200名の方が会員登録して
います。「故郷を愛するには、ま
ず故郷を知ることから」を合言葉
に講演会やバスハイク、史跡めぐ
りなど、様々な行事を企画してい
ます。ぜひ、ご入会ください。

【入会の方法】

博物館の窓口にて会費を納めて
ください。博物館の窓口まで来る
のが難しい方は、ご一報を!

【年会費】

☆個人会員 3000円
☆家族会員 1名につき 2000円

年度途中から入会される方は
月割りの会費をいただきます。

【お問い合わせ】

博物館(☎33-4666)まで

《古文書解読コーナー》

① 津路屋

② 〈ヒント〉政治のしかた

③ 己下

④ 〈ヒント〉分にすぎたあつかい

⑤ 痔局

⑥ 〈ヒント〉鉄・銅・錫などの合金

⑦ 馬場

⑧ 〈ヒント〉しな。物品

⑨ る路

⑩ 〈ヒント〉寸前

◎ 答え

(反対向きに見てください)

- ① 物品 御
- ② 分
- ③ 物
- ④ 物
- ⑤ 物
- ⑥ 物
- ⑦ 物
- ⑧ 物
- ⑨ 物
- ⑩ 物

みやこの「お宝(文化財)」拜見⑦

福岡県指定文化財

木造僧形八幡神坐像

【所在地】みやこ町犀川生立7番地

【所有者】宗教法人 生立八幡宮

【規模・構造】像高四一cm・榿材製、寄木造

体内に応永元(一三九二)年の奉納銘がある

生立八幡宮について

この神像が収められている生立八幡宮は、「生立さま」の呼び名で犀川地区の人々に古くから親しまれています。特に犀川盆地内の殆どの集落を氏子ムラとして抱えることから、中世以来「西郷(犀川)総鎮守」と位置づけられ、現在に至っています。

神社の歴史は古く、遠く神代の頃に神功皇后が三韓出兵の帰途立ち寄り、この地で生後間もない



鬱蒼とした木立に囲まれる生立八幡神社



凛々しい求道の青年僧姿の八幡神坐像

皇子・誉田皇子(のちの応神天皇で八幡神の化身)が始めて立ち上がるという奇跡が起きたことから「生立」の名がついたという伝説があります。ただ、実際の歴史が確認できるのは平安時代からで、中世以降仲津郡(現在の行橋市とみやこ町の南部)の大社として領主の参拝が行われる格式高い神社とされてきました。神さまなのに「袈裟」姿?



胎内には銘文が刻まれています

その役割を終え、現在は傍らで休憩されているような状態です。その休憩中をお邪魔して恐縮ですが、特徴あるお姿を皆さんに理解いただくため少しだけお付合いたただくこととしましょう。

さて、この像は神社の祭神である八幡神の姿を現していると考えられますが、特徴は何といってもその身なりにあります。一見して分るように坊主頭に袈裟姿というおよそ神さまらしからぬ姿をしておられますが、この姿は八幡神という神さまの経歴に由来しています。八幡神はもともと土着地方(とくに大分県宇佐市周辺)の土着神でしたが国運に関わる託宣(お告げ)を下すことで一躍有名になり、奈良時代以降護国の神として朝廷からも崇敬を寄せられるようになりま

***神像の胎内に刻まれた銘文(原文)**
豊前仲津郡木山郷生立八幡宮者一郡一社之宗廟也 治暦三年所奉遷坐於城原之大菩薩者養老七年国司男人安置之尊像也 然今茲無故生損所之条変妖襲来之表兆 誠可恐之至也 依之更速官廳令處刻奉安之畢 応永甲戌曆辰鐘月嘉祥日 大願主 地頭 西郷刑部左衛門高頼 敬白

***右の銘文の意識**
豊前国仲津郡木山郷に鎮座する生立八幡宮は郡中第一のおやしるである。治暦三(一〇六七)年に城原の地からお移した八幡大菩薩の尊像は、養老七(七二二)年に時の豊前国司・宇奴首男人が奉納したものである。

しかし今、さしたる理由もなく壊れることがあったので、不吉なことが起こる前触れのように思われ、誠にもつて恐るべきことである。よってこのことをその筋の役所へ届け出たうえで、新たに刻みなおした神像を安置するものである。

応永元(一三九二)年六月の善き日 願い主 地頭 西郷高頼 敬つて 申し上げる

出家後の八幡神は「八幡大菩薩」の名で呼ばれますその霊験

を高め、より多くの人々の尊崇を集めて、中世には「神は八幡」と言慣わされるほど、人々の間に知られるようになります。

このように神さまなのに仏の教えにも従う神も仏もわけへだてなく尊ぶ異なる考え方を協調させる、というのは「神仏習合」と呼ばれて日本人ならではの感性とされていますが、その背景には八幡神という神さまの行動に共感する日本人の志向が反映されているということが出来ます。

この神像はこうして広まった八幡信仰の貴重な産物といえ、この信仰のふるさとである豊前地方に残る数少ないゆかりの遺品です。

形に示される八幡神の性格

神像にはこのほかにさりげない姿で、この神の特色が強調されています。まず形相が青年僧の形をとっていることで、若々しい力に満ちあふれた神であることを示します。また左手には経巻、右手は仏の特徴である手印(ポーズ)か錫杖とよばれる杖を持つ形をとっており、人々を救うために修行する神にして菩薩という姿が強調されています。

このように一見何気ない僧侶姿の木像のようにしか見えないよう

でいて、豊前地方のみならず日本人の心を知る情報が数多く含まれているというのも、この神像の特色と言えます。